

# 令和7年度 宮前区地域デザイン会議 ～アートでつながる宮前区～

## 記録動画テキスト

### 目次

---

出席者一覧（参考） .....	1
開会挨拶・参加者紹介 .....	2
（1）アートでつながる宮前区をテーマとした理由等 .....	4
（2）区民のアートの取組事例について .....	8
（3）意見交換① アートの魅力・すばらしさ .....	11
（4）意見交換② アートの可能性 .....	20
アートを展示する場所の可能性   事例紹介 .....	37
（5）意見交換③ アートを展示する場所の可能性 .....	40
（6）今後の予定 .....	48

### 出席者一覧（参考）

---

#### [ 市民出席者 ]

川崎市アートコミュニティ形成プロジェクト 「こと!こと?かわさき」第1期ことラー 有江 恭子さん  
イラストレーター/グラフィックデザイナー 安藤 尚美さん

「地域活動支援センターアトリエ言の葉」施設長 大高 玲さん  
美術家 京森 康平さん

エリーズカフェ 代表 小林 貴大さん

株式会社スペリアル 場づくり企画部 須田 展正さん

(株)クリップ 代表 テレビ制作 プロデューサー 宮本 哲也さん

絵描き屋（イラスト、壁画、ボディペイント等） 武藤 慧子 (Keppy)さん

「花ノ停留所」代表/デザイナー 山田 佳一朗さん

ペンギンカフェ 和田 美智子さん

## [ 行政出席者 ]

宮前区長 齋藤

宮前副区長 小泉

川崎市市民文化局市民文化振興室 担当係長 青木

宮前区役所まちづくり推進部企画課長 玉井

宮前区役所まちづくり推進部企画課 課長補佐 小西

宮前区役所まちづくり推進部企画課 職員 鈴木

## [ 記録作成・進行補補助 ]

石塚計画デザイン事務所 千葉、吉川、藤木

## 開会挨拶・参加者紹介

---

### 宮前区役所まちづくり推進部企画課：鈴木（司会）

00:07

それではただいまから、令和 7 年度宮前区地域デザイン会議を始めさせていただきます。私は本日進行を務めさせていただきます宮前区役所企画課の鈴木です。どうぞよろしくお願いいたします。

開会にあたりまして、宮前区役所課長の玉井からご挨拶させていただきます。

### 宮前区役所まちづくり推進部企画課長：玉井

00:33

改めまして企画課長玉井と申します。本日はよろしくお願いいたします。私 4 月にこちらの企画課に参りまして地域デザイン会議は初めてなのでとてもわくわくしております。

まず地域デザイン会議って何なのかが少しわかりづらいので、挨拶に代えましてその説明を少しさせていただきます。まずこのチラシ最後資料 8 に入っているものが地域デザイン会議に関するご説明のチラシになります。

01:01

真ん中に書いてある地域デザイン会議は区民の皆さんが参加し、地域のことを話し合い、地域課題の解決に繋げていくものということになります。今日はざっくばらんに、皆さん普段考えていらっしゃることをお聞かせいただくと大変ありがたいと思っております。

01:19

この地域デザイン会議は比較的新しい取組でございまして、令和3年から5年までを試行期間としまして、昨年度から本格実施をしております。これまで地域性公共施設の地域化、落ち葉の活用、前向きな終活を地域のみinnで考えるというようなことをやってきまして、今年から「アート」に取り組んでいこうと思っております。

これから少し長い時間になりますけれども皆様の意見を聞いて参りたいと思いますので、よろしく願いいいたします。

### **宮前区企画課：鈴木（司会）**

02:07

玉井課長ありがとうございました。続きまして本日の注意事項を説明させていただきます。

本日は記録および後日公開用に写真や動画撮影をさせていただきます。会議中の写真や動画を後日ホームページで公開いたします。記録動画の撮影があることをあらかじめご了承ください。また、本日はイツコムさんによる取材が入っております。

02:33

テレビや写真記録動画に映ることがNGな方はお近くの職員までお伝えください。それでは、本日の会議の参加者をご紹介しますので、お手元資料1、出席者名簿をご覧ください。まず初めに、市民参加者をご紹介します。

02:52

50音順で名前をお呼びいたしますので、手を挙げていただきますようお願いいたします。

川崎市コミュニティ形成プロジェクト「こと！こと？かわさき」の第1期ことラーである有江恭子さん。同じく「こと！こと？かわさき」第2期ことラーでイラストレーターグラフィックデザイナーとしても活動されている安藤尚美さんです。

03:24

平にある「地域活動支援センターアトリエ言の葉」の施設長である大高怜さん。美術家として活動され、2020年度川崎市市勢要覧「カワサキノコト」表紙デザインを担当していただいた京森康平さんです。

03:48

菅生ヶ丘で子ども食堂、障がい福祉サービス、コーヒー販売を行っている「エリーズカフェ」を運営され

ている小林貴大さん。

宮前区にあるシェアハウス「シェアトラックス宮崎台」を運営している株式会社スペリアルで、多様な場作りなどを経営企画されている須田展正さん。

04:15

株式会社 CLIP の代表で動画制作などを行っている宮本哲也さん。

イラスト・壁画・ポスターペイントなどお絵かき屋として、Keppy の愛称で活動されている武藤慧子さん。

平で苗や家具や小物などの販売を行っている「花ノ停留所」の代表で、自らデザイナーとしても活動されている山田佳一郎さん。

区役所の近くでペンギンカフェを運営し、カフェの中でワークショップやライブ、親子で楽しみながらアート作品を作成するランチ会など、様々な取組を実施されている和田美智子さん。

05:18

続きまして、行政側の出席者を紹介させていただきます。

宮前区長の斎藤でございます。

副区長の小泉でございます。

川崎市市民文化局市民文化振興室担当係長の青木でございます。

宮前区役所まちづくり推進部企画課長の玉井でございます。

宮前区役所まちづくり推進部企画課長補佐の小西でございます。

また、本日の会議の進行に際して、石塚デザイン事務所の千葉さんと吉川さん、藤木さんに記録撮影補助をお願いしておりますので、よろしく願いいたします。

## (1) アートでつながる宮前区をテーマとした理由等

---

**宮前区企画課：鈴木（司会）**

06:16

それではまず、企画課の小西から本日の会議の内容とアート繋がる宮前区をテーマとした理由などを説明させていただきます。

**宮前区役所まちづくり推進部企画課 課長補佐：小西**

06:33

小西です。それでは資料の3、こちらのスライドがある資料をご覧くださいと思います。

まず私の方から、今日なぜこの「アートでつながる宮前区」をテーマにしたのかというところを説明させていただきたいと思います。スライド前もご覧くださいと思います。まず川崎市につきましては、実は「アートホール」という取組を行っています。

ご存知の方もいらっしゃるかもしれませんが、元々川崎市は地域に根差した多様な文化で、ミューザ川崎とか「藤子・F・不二雄ミュージアム」とか、そういった地域資源も結構ございます。こうした資源を活用しながら、川崎市全体をフィールドとして文化芸術を広め、様々な価値や魅力を高めていき、コミュニティ形成に繋げていきたいという取組を「アートホール」という言葉でくくり、取組を進めているところでございます。

その取組の一環として、資料のこのスライドを見ていただければと思いますが、「こと！こと？かわさき」という取組をアートホールの実現に向けて、東京芸大と連携して進めております。

07:43

この取組は、アートを介して人と人、人と場所、人と物、こういった「こと作り」を行っていくアートプロジェクトになっております。その主役となるのが、先ほどの説明がありましたコミュニケーター「コトラー」という方で、有江さん、安藤さんが就任いただいております。この「こと作り」を進めていく取組を推進しています。この方は様々な背景を持っており、アートに興味関心がある方が集い、多様な形で活動されています。活動期間は3年で、会社員の方など、いろいろな方がいらっしゃる形です。

08:20

こうした方々がコミュニケーターとして様々な「こと作り」を行っています。小さいですが、ここに「コトコト」の活動内容を記載しています。文化施設が所蔵しているものや、市内にある文化財、ソフトな部分、パブリックアートなどを活用して、コミュニティに繋げていく取組です。その事例として、市内の文化施設を巡るプログラムや、医療や福祉とコラボレーションしたプログラムなどを企画する取組を、川崎市全体で進めているところでございます。

09:00

今度は視点を宮前区に移して説明させていただきます。なぜ宮前区なのかという点ですが、資料スライド6です。データを示しますと、総務省統計局が実施している「就業構造基本調査」という調査があります。

その中で「文筆家・芸術家・経営農家」の数を統計上調べておりました、宮前区は23区を除いて、政令市の行政区175区の中で、2010年は3480人で上位から3番目、2015年も3570人で上位から3番目、2020年は中原区と高津区に抜かれましたが、それでも上位から5番目という位置にあります。

政令市の中ではクリエイティブな活動をしている方が多いという傾向がございます。おそらく田園都市線沿いに住まれて活動されている方が多いのではないかと思います。本日お越しの皆さんもそうだと思いますが、そういった傾向がデータとしてございます。

09:57

そういった活動がある一方で、アートホールの先ほど説明した資料にも補足資料として最後に付いておりますが、この中でアート等の活動を発表する場所として「こういったところがありますよ」というページがございます。その中で、現時点では宮前区だけが活動する場所が実はないという状況です。今後出てくる可能性もありますが、例えば市民館の区民ギャラリーなど公共施設はあるものの、民間の施設でこういった活動ができる場所が少ないというのが現状でございます。

10:31

次のスライド行きます。8番のスライドです。こうした課題の中、宮前区のソーシャルデザインセンターでは、地元で緩く繋がる交流の場がございます。「みやまえBASE」というのですが、そこで課題として、いろんなやりたいことや課題を議論する場があり、その中で「個人の美術作品を展示する場所が欲しい」という意見が出されました。実際にそれをアイデアとして形にしてみようという動きがありまして、それは昨年のお話ですが、ちょうど資料にもあります通り、鷺沼駅前のシェアオフィスが活用できるという話がありました。

そこで「オフィスだった場所が展示に使えるのではないか」ということで、次のスライド9番で「みやまえBASEのスピンオフ企画」という名のもと、昨年6月27日から7月3日にかけて、このシェアオフィス内で宮前区で活動しているアーティストの方の作品を、安藤さんやKeppyさんにご協力いただきながら展示会を行いました。300人の方にご来場いただき、作品を発表する場を作ることができたというところでございます。

11:41

次のスライド10ですが、さらに昨年の11月には、この「みやまえBASE」の中で、今日ご紹介のKeppyさんなどにご協力いただきながら、アーティストとワークショップの形で来場者と繋がる企画も実施させていただきました。

さらに、次のステップに進んだというところでございます。

スライド 11 をご覧いただければと思います。これは宮前区の市民広場、市区役所と市民館の間にある広場なのですが、こちらに古いベンチがありました。100 周年記念としてこれをリニューアルしようということになりました。

12:14

本日お越しの京森さんにご協力いただきまして、近隣の小学生を集め、京森さん監修のもとワークショップを実施し、このアート体験を行っていただいたというところです。実際どのようなことをしたかという、川崎市が多様性を掲げていることをコンセプトにして、ベンチを装飾していただきました。

例えば、立方体をそれぞれ好きな形にカットして、その形から連想されるモチーフや特徴をデザインしたオリジナルのスタンプを子どもたちが作成し、それをスタンプして、非常に華やかで彩り豊かなベンチが完成しました。これをぜひ帰りに見にいらしていただきたいのですが、市民広場のこのベンチがカラフルに彩られて、アート作品として仕上がったことで本当に魅力的になったなと思っております。ありがとうございました、京森さん。そういった取組を広げてきたというところでございます。

13:11

これを踏まえまして、少し整理になりますが、アーティストとして活動している区民の方が多いという中で、なかなか場所がないという課題があります。

鷺沼みやまえ BASE の中でも、そういった課題が出され、先ほどご紹介したようなアート展のような形で、いろいろな活動が生まれてきました。こういったアートの可能性に期待して、今年度「繋がる宮前区」というテーマをさらに掘り下げて議論できないかと考えております。

13:41

安藤さんにもご協力いただきながら、アートに関わる地域の方を集めて、議論する形になりました。今年度は、後ほど安藤さんにも紹介していただきますが、実は宮前区の市民提案型総合情報発信事業というものがございまして、区の魅力を、区民の方と一緒に発信していく事業がございまして。

その中で、安藤さんから「みやまえ BASE をアートの場として活用できるのではないか」という提案があり、「宮前くらしを美術館」と称して取組を提案し、現在実行中でございます。進めているところです。

14:13

こうした取組をきっかけに、区役所の公共施設の活用をはじめ、例えば区内のカフェなど展示できる場

所を広げていくことができれば、アーティストの発表の機会の確保や、区民がアートに触れる機会が増えるのではないかと考えています。

そのことを通じて、様々な人が繋がる場を目指していきたいと考えており、本日はそういった意見交換ができればと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。以上です。

### 宮前区企画課：鈴木（司会）

14:44

小西課長補佐、ありがとうございました。

続きまして、(2) 区内アートの取組事例について、区内でアートに関連した様々な取組をされている安藤さんからご説明をお願いいたします。安藤さん、よろしくお願いいたします。

## (2) 区民のアートの取組事例について

---

### 安藤さん

15:01

では、よろしくお願いいたします。本日は私のこれまでのアートを介した繋がる場作りの取組事例をお伝えいたします。簡単な自己紹介から始めまして、四つの活動をお伝えし、最後にその取組事例についても少しだけ触れていきます。安藤直美と申します。

宮前区を拠点として、川崎市内や都内などでイラストレーター・グラフィックデザイナーとして活動しつつ、社会活動家としてアートやクリエイティブを使った社会貢献活動をしております。

まず初めに、昨年6月から1週間ほど行った「さぎ沼アート展」のご紹介です。地域で繋がることや課題解決を目的とした、川崎市の市民創発制度「SDC 宮前区版みやまえ BASE」のスピノフである鷺沼ベースの皆さんと協力し、鷺沼会議室をお借りして、8名ほどの作家の作品展示やワークショップを行いました。

16:13

二つ目にご紹介したい事例として「つながるみんなのアート展」についてお伝えいたします。アートホールという言葉と通じるものがある取組の一つで、まちのスペースをお借りして、市民の方々にプロ・アマ問わず集まっていただき、絵画や写真などを自分たちで展示していただきました。ただ展示して楽しむだけでなく、社会課題の解決に繋がる取組にもなりました。

引きこもりのお孫さんがいる高齢女性が「孫の絵をみんなに見てもらいたい」という思いを叶える場になったり、20代の女性が悩みを打ち明け、区役所のサポートシステムに繋げることができました。発達障害の息子を抱えるお母さんも家族一緒に展示をされていました。

障害のある女性からは「障害という枠でくくられない展示、無料というところもいいですね」「あとは家を一人で出られなかった場合のサポートがあるといいですね」などのご意見もいただいております。いろいろな作品や人々に出会い、「私は生きている実感、そして喜びを感じている」とのメッセージをくださった方もいました。

17:30

外国籍の方も写真を展示され、「思ってもみなかったことが起きた」と SNS で感想を発信されていました。老若男女、障害の有無に関わらず、国籍も関係なく、みんなが繋がる企画を行うことができました。この取組は、まちの小さなスペース「鷺沼会議室」をお借りして行いました。

17:59

続いて、昨年11月ごろ、宮前区の鷺沼小学校の5年生180人と、10人以上の先生たちと共同で行った「ぐるぐるリサイクルアート展」のご紹介です。1年間を通して、リサイクルアートを総合の授業で行っているものです。「アーティストの方に、生徒たちにアドバイスをしてもらいたいです」と小学校の先生から問い合わせがあったことがきっかけで、私は元々お世話になっていた鷺沼会議室のオーナー馬場さんをお願いして、1週間スペースをお借りし、「ぐるぐるリサイクルアート展」を行うことを提案しました。

18:43

「未来を変える僕らの力」というサブタイトルを考案し、捨てられるはずのものが大切なものになる挑戦を市民の皆さんに届けました。アート展の最中は、アートにちなんだワークショップや似顔絵を描くイベントも同時に行い、680人の来場者があり、大盛況でした。

学校からゲストティーチャーとして研究報告会にも呼んでいただいた他、子ども服を作る過程で出た端切れなどをアートに使うと提供してくれる方や、自分たちを小学校に紹介してほしいというアーティストの方まで現れ、小学校との関係性が今でも続いています。

三つ目は「助け合いでつながるプロジェクト 希望のマチアート」。マチアートとは、コーヒーのマキアートにかけてこの名前となっています。

19:39

まちがアートで溢れるとき、あなたの心も温かくなる。この取組は、宮前区内のカフェにご協力いただき、少しずつ繋がりが生まれています。アーティストとカフェのコラボでできたアートの絵葉書を 150 円で販売し、原価を除く売上をその町の子どもや障害、高齢者の支援施設にお金だけでなく、ワークショップなどの体験や本などとして届けるシステムになっています。

今は葉書だけですが、ゆくゆくは T シャツやポーチなどのグッズ、原画の販売などにも繋げ、売上がきちんとアーティストにも届く取組に発展させていきたいと考えています。

20:27

アートとケア・福祉を掛け合わせた取組になります。

それでは最後に、その他の活動をお伝えします。宮前区 SDC の取組の一つとして、「会話のタネカード」を考案しました。こちらです。初対面の人とこのタネカードを使って会話の種に花が咲きます。

20:51

上段にお悩みの種として「不眠」や「子どもが不登校」など、今悩んでいることを短く記入。下の段に「やりたいこと」「挑戦したいこと」を記入。「旅行に行きたい」「部屋の掃除がしたい」「起業したい」など。これを首から下げて、マルシェ兼カフェのスペースに入っていました。

21:08

「あの人とこんなことで繋がりに感謝している」という声が、地域ケア推進課の職員の方、外国籍の方、介護関係の仕事の方、同時開催していたマルシェ出展アーティストの方々からいただきました。大きな手応えがありました。

21:23

その他、ゆるアートルーム。LINE で仲間と繋がるグループ LINE を作っており、「今日はどこの展示に行った」「今こんなイベントが開催されているよ」「高津に大きな壁画があったよ」とか、「カバンが余っているんだけど誰かいらませんか」などアート情報が行き交い、交流の場として機能し始めています。

また、建物内のデッドスペースを利用して階段ギャラリーを期間限定で運営しました。そこでは、インスタグラムで繋がったギリシャ在住の若手アーティストさんをお願いして作品を提供いただき、展示を行いました。世界と繋がることも今の時代、意外と簡単にできるのだなと新たな可能性を感じる取組となりました。

私からの事例紹介を終わります。

**宮前区企画課：鈴木（司会）**

22:30

安藤さん、ありがとうございました。続きまして、アートの魅力、素晴らしさについて意見交換に移りたいと思います。意見交換の流れについて、企画課の小西から説明させていただきます。

**（3）意見交換① アートの魅力・すばらしさ**

---

**宮前区企画課：小西**

22:41

では私の方から意見交換について説明させていただきます。前のスライド 16 をご覧いただければと思います。

22:50

安藤さんからも事例紹介がありましたが、今日お越しいただいている皆様には、アートに関する取組等を実施されてきた皆様に、まずアートの魅力について語っていただきたいと思っております。

23:07

これまでアートを通じて体験した魅力や素晴らしさについて、ご自身の体験したエピソードを踏まえて意見をいただけると幸いです。いきなり手を挙げてというのもあれなので、まず初めに先ほど市民広場の活用の際にご協力いただいた京森さんに、アートの魅力や素晴らしさについてご発言いただいてもよろしいでしょうか。

**美術家 京森 康平さん**

23:36

宮前区で美術家として活動している京森と申します。先ほどご紹介いただいた広場のところで、ベンチ7台を装飾するプロジェクトを制作させていただきました。宮前区内の小学校から有志の方を募集し、100名ほど参加いただき、2日間に分けてワークショップを行い、ベンチを塗装するプロジェクトでした。

24:17

そのアートを通してこういった豊かさや魅力があったかについてお話ししますと、私の考えるアートの

魅力は、わからないものや答えのないもの、デザインとはまた違った「これって何だろう」という発想だったり、「なぜここにこれがあるんだろう」「なぜこれはこんな形をしたものがここにあるんだろう」といった問いが区役所のような皆が使える場所にあることで、皆がそこに何かしら感じたり。

24:59

それが日常の風景にあることで、コミュニケーションや考えるきっかけがあることが、私にとってアートの豊かさなのではないかと考えています。

#### **宮前区企画課：小西**

25:14

はい。まさに、先ほど言ったアートホールもコミュニケーションとしてアートを活用していくところで、この取組はそれに資するのかなと思います。

25:25

続きまして、後ほどこちらの活動もされている有江さんに、簡単にご自身が感じているアートの魅力についてご紹介いただければと思います。

#### **川崎市アートコミュニティ形成プロジェクト 「こと!こと?かわさき」 第1期ことラー**

##### **有江 恭子さん**

25:35

ちょっと緊張しますが、そうですね。私がことラーを始めて1年が経ち、その中で一番印象に残っている活動をお伝えしたいと思います。川崎駅のところに浮世絵ギャラリーという所があります。

25:54

そのギャラリーを利用して、小学生と中学生のワークショップ、対話型鑑賞を行いました。それが去年と今年の1月、ちょうど2回行ったばかりなのですが、私が担当したグループに3人の女の子が来ました。小学校4年生だったんですね。

26:26

「お友達なのかな?」と聞くと、皆バラバラの小学校に通っているとのことで、要はフリースクールに通っているという事情でした。その中の1人は場面緘黙症といって、家族の前では話せるけれども、人前では話せないという子どもでした。突然それを聞かされて始まったのですが、そうしたことを首にも出さずに場作りをして、その子は顔の表情に非常に強張っていたんですね。その流れで浮世絵ギャラリーの方へ行き

27:05

対話型鑑賞を始めました。みんなが一つの絵に対して色々意見を言っていく中で、彼女は話すことができなかったので「どんな色が好き？ 指さしてみて」と言っても、それもできなかったんですね。

27:21

でもみんなで話したり、みんなの意見を聞いていくうちに自分の中で何かが変わってきたのか、終わって「つぶやきシート」というものがあるんですけど、何かを感じたりしたことを書いたりしても良いし、書かなくてもいいというスタイルでした。

27:39

すると彼女が自分の似顔絵を描きながら「すごく楽しかった」と、そのときにはもう顔のこわばりもなく、言葉で言えなくて、文字だったのですが、「すごく楽しくてまた来たい」と書いてくれました。アートを介して人と繋がるということを私はそこで初めて経験させていただきました。

28:02

非常に貴重な経験で、私も非常に心が豊かになりました。それがやはりアートの魅力ではないかと思います。

#### **宮前区企画課：小西**

28:13

ありがとうございます。本当に素晴らしいお話でした。清村さんのところでも今お話がありましたが、やはり言葉を超えて人に訴えかけることができるのは本当にすごいことですね。ありがとうございます。なかなか体験しないと感じられないことだと思います。

続きまして、障害者施設の方でアート活動されている大高さん、アートの魅力についてよろしいでしょうか？

#### **「地域活動支援センターアトリエ言の葉」 施設長**

**大高 玲さん**

28:40

そうですね。平で障害者の成人の方たちの通所施設を運営しています。以前は入所施設で働いていて、そのときはボールペンの組み立てだったり、シュレッダーを動かして紙を細くする作業だったり、チップの色分けなどをやっていましたが、少し疑問に感じる部分がありました。もっとみんなが個性を出して

何か取り組めないかなと感じていました。

29:23

そういう思いがあったので、アート施設を作ることに決めて、毎日活動をやっています。絵描くのが好きな人は絵を描いたり、手芸が好きな人は手芸をやったりしています。ただ、入所施設では、人に言われたことだけをやっていたので、なかなか個性を出せないというか、自分が誰なのか、何者なのかが自分でもわからなくなってしまうたり、暴れてしまったり、落ち着きがなくなったりすることがありましたが、アートをやるようになって、みんなが「この絵いいね」とか「この絵感動した」とひと言ふた言声をかけたりにして、自分でも「自分とはこういう表現をする人間なんだ」と自分で自分を自覚できるようになります。

30:24

周りも「こういう表現をする人なんだな」と理解し、「こういう障害がある人だな」というよりも、「こういう表現をする人なんだ」と認識できることが、アートの魅力なのかなと感じています。「私を伝える展覧会」という展覧会を1年に1回開催していました。今は少し形が変わり、「ONEART (ワンアート) 展」という名前になり、地域の他の施設にも声をかけ、今は4団体で開催しています。

一般の方も参加している展覧会です。来た人は施設名などは書いていないので、作品を見て、「この絵、すごく好き」といって。誰が書いたかは、障がい者なのか、障がい者ではないのかその絵を見ただけではわからないようになっていて、作品そのものを見てもらえる区別のない感じがしています。前はミュージアムで活動しており、今は横浜に移動して活動しています。

こういった区別のない社会を実現していくために、アートはとても魅力的だと日々感じています。

#### **宮前区企画課：小西**

31:55

ありがとうございます。本当、「こういう障がい」というより「こういう表現をする人なんだな」というところはなかなかアートでないと。表現の仕方によって得意・不得意が現れてくるというのは、そういうところがあるのですね。まさにアートならではの感じます。

続きまして、小林さんのところでも障害の関係で活動されているということで、もしよろしければご発言をお願いいたします。

#### **エリーズカフェ 代表**

## 小林 貴大さん

32:23

はい、小林です。コトラーさんには自分もお世話になっておりまして。ご無沙汰しております。  
先ほどお話に出た展覧会にも参加させていただき、作品を展示したこともあります。ありがとうございます。  
自分は「エリーズカフェ」というところで、障がい児者の一時預かりというサービスを行っています。

32:55

昼間は障害のある方が通う場所になっています。近くの公園で子ども食堂の開催も行っています。公園の管理もさせていただいているのですが、先日、これとは違うのかもしれませんが、宮前区を美術館にしようということでロゴマークを募集しており、子ども食堂の開催に合わせてロゴマークをみんなで描こうという企画を子ども食堂と同時に開催しました。

33:43

そのときに感じたのが、子どもたちは「こういうのやるよ」と言うと喜んでいろんな絵を描いてくれました。一般の子どもたち、利用している障がいのある方たちも、みんな一緒に絵を描いてくれました。みんなすごく楽しそうで、とても良い機会をいただいたなと思いました。

個人的におじさんになってくると、好きな絵を描くという機会が全然なくなって、何描いたらいいんだろっていうのがわからないような硬い頭になっているんですけども、やっぱり、アートで「何か描こうよ」という機会があると、年齢も関係なく、みんなで楽しめる一つのきっかけになるし、そういう力がアートにはあるんだなと最近改めて感じました。あとは何か配ったりしても大丈夫でしょうか。

35:08

ありがとうございます。うちでやっている取組を少しお持ちしました。最近 3 周年を迎えまして、その記念誌とコーヒーのドリップパックを作っています。よかったらお試しで一つずつお持ち帰りいただければと思います。パッケージは全て手書きで一つひとつ違います。

35:45

これは子どもたちや、通っている方たちと全て手書きで作ったもので、アートと言っても、絵を描く人もいれば、折り紙を折る人もいますし、シールを貼る人もいますし、物に絵の具をつけて押す人もいますし、手形のようなものをつける人もいますし、アイデア次第では、やはりうちの場合は障がいのある方が多いので、障がいがあるから絵が描けないのではなく、違う方法で表現することができるのだと感じています。

36:37

本当にみんな全然違うものを書いて楽しんでいます。アート専門に何か活動しているわけではありませんが、エリーズカフェではコーヒーの販売をされており、このドリップパックをみんなで作って、その売り上げを子ども食堂の資金にしています。その中で、アートを通して、いろんな方が参加できる活動の一つとなっています。

アートってすごく魅力的だなと感じながら、日々仕事をしています。

### **宮前区企画課：小西**

37:24

ありがとうございます。本当に私も、今「絵描いて」と言われたら全然描けないと思うんですが、昔は描けたんだろうなと思います。

本来は自由な発想があれば何でもできるはずですが、大人になるほど制約が出てきて。そこがアートの魅力で、むしろ子どもたちや障害のある方のほうが本当の自分の思いを描けるという意味で、すごいツールだと感じます。

37:51

京森さんもおっしゃっていましたが、アートには正解がなく、どんな表現でも良いというところが素晴らしいのだと思います。シールを貼るだけでも良いし、絵を描くだけでも良いという多様な手法があることが、本当に素晴らしいと感じます。

38:04

続きまして、アーティストとして活動されている Keppy さん、実際に体験されて語れるところをお話しいただけますか。よろしく願いいたします。

### **絵描き屋（イラスト、壁画、ボディーペイント等）**

#### **武藤 慧子 (Keppy)さん**

38:22

Keppy という名前で活動させていただいています。先ほどもご紹介いただいたように、「鷺沼アート展」などでも展示をさせていただきました。本当にありがとうございました。鷺沼の活動を通して区内のアーティストさんと知り合うことができ、とても良い経験だったと思っています。

38:39

区役所の中では水彩画のグループの方など、いろいろな展示があると思いますが、そういった個別のグループだけでなく、一堂に、フラワーアレンジメントの方だったり、近隣の方だったり、いろいろな分野の方が一度に会場に集まっていたことで、「区内でこんな活動をされている方がいるんだ」と感じ、とても面白い取組だったなと思います。本当にアートという言葉自体が多様性をはらんでいて、どの分野とも限定しないので、アートという言葉そのものにいろんな可能性があると思います。

39:22

本当にその通りで老若男女問わず、いろんな方が繋がり、感想も自由であり、感じ方も自由というところで、本当にいろんな可能性があるのではないかと思います。少し個人的な話ですが、先週の土曜日に高津区で、落書きされてしまったお店のシャッターを子どもたちの絵で塗り替えようという取組を行いました。地域の子どもたちとコミュニティスペースの方、その落書きされてしまったお店の店長さんと協力して実施しました。

40:06

これが非常に反響が良く、バス通りからも見える場所なのですが、「明るくなった」「いいね」「私もやりたかった」ママさんも「子どもにやらせたかった」といった声が多く寄せられました。

40:26

子どもたち自身もその絵を見て誇りに思い、「これ私が描いたんだ」「僕が描いたんだ」と。こういうことをすると、アートというのは、まちを元気にしていく力になるのではないかと思います。「明るくなったね」という言葉も印象的でした。

40:54

表現する側としては、やはり自信になる。誇りに思う。今、安藤さんがいろいろなカフェで展示する場所を作ったりされていますが、これからいろんな方が展示する宮前区でありたいという発表がありましたけれども、そういう機会が増えることで、アートという分野で発表する場ができると、それが自信につながり、子どもたちを含め、そうした人が増えていく気がします。

ゆくゆくは展示するだけでなく、それを購入する、きちんと対価としてお金を受け取ることができれば、買ってもらうということがあると、結局その人自身にも還元されるし、続けていける力になるんじゃないかなと思います。

そういう意味で、実は例えばアートを買うという文化が、日本ではまだ少し意識的に薄い気がしていて、

私の感覚ですが、「子ども部屋にこの作品を飾ってみようか」といった感じで、その地域の人たちのところから始まっていったら、すごく魅力的になるのではないかと少し思いました。

#### **宮前区企画課：小西**

42:15

ありがとうございます。本当に面白い話で。すごいですね、高津区で小学生が塗り替えるって。確かに綺麗にしてもまた落書きされてしまうけど、誰かが描いた作品だと、落書きしようとする人も気づきづらいというか、そういう流れに繋がりにくいという意味では、面白い発想ですよ。

子どもたちもそれを誇りに思うでしょうし、アートを元気にするという意味でも、無限の可能性があるのでどんな可能性もあって、それを表現できるのはすごいことですよね。ありがとうございます。

では最後に、デザイナーでもある山田さんにアートの魅力について教えていただければ幸いです。

#### **「花ノ停留所」代表/デザイナー**

##### **山田 佳一朗さん**

43:04

時間があれだったら大丈夫ですよ。

43:04

はい。私はデザイナーなので、あまりアートについて語れる感じではないのですが、多分アートの話をしている方々は、あまり「デザイン」という言葉は意識されないのかなと思います。私たちデザイナーは、デザインとアートの違いについてわりとすぐ話に出たりします。

43:25

この年齢くらいになるとあまり話さなくなりますが、私も美大に通っていたので、最初は「デザインとアートは違うんだ」という話がどうしてもあって。ただ今、自分がやっていることを振り返ると、あまり変わらないというか、皆さんがおっしゃっていることと自分がデザインを通じてやっていることは変わらない、町を元気にするとか、子どもたちや障害者の方々の話も出てきますが、コミュニティを元気にしたいという意味ではデザインもアートもあまり変わらないのかなと思います。

どちらかというとならデザインの場合は、私は家具や空間、腕時計や名刺入れなどを自分でデザインしています。こういったものを通じて生活を豊かにすることを考えながら取り組んでいます。どちらかというとなら主役ではなく、目立たない。別に感動はいらぬ。でも、持っているとなら人生が豊かに、生活が豊かにな

ることがデザインの役割なので、目立つとか主演でそこに飾られるということはないかもしれませんが、基本的には同じかなと今聞いていて思いました。

#### **宮前区企画課：小西**

44:36

ありがとうございます。時間の関係で、一旦ご発言いただいていない方、アーティスト活動されている方を中心にお伺いしましたが、もし宮本さんや須田さんなどもし何かあればお話しただければと思います。

44:58

すいません、勝手に仕切ってしまう。一旦この魅力についてはこんな感じでまとめさせていただきます。せっかくですので、今、石塚計画デザイン事務所の方にまとめていただいておりますので、今の議論を簡単にまとめて報告いただけると幸いです。ありがとうございます。

#### **石塚計画デザイン事務所：千葉**

45:14

今いただいたキーワードをいろいろ書き留めましたが、赤字で書いたところがキーワードかなと思います。京森さんの方から出ていた「公共空間の日常の中で『何だろう?』』というものに出会うことが考えるきっかけになる」という点があり、考えるきっかけになる、という意味で「きっかけを与えるもの」というキーワード。

あと、大高さんと小林さんの方から出ていたのですが、障害を持った方も持っていない方も区別なく表現できて、それを見たり繋がったりすることができる、という「区別のない」という話が、キーワードとして出てきていたのかなと思います。

対話型鑑賞の中で、言葉のコミュニケーションではなく、アートがあることで絵を描いて楽しかったということ表現したエピソードがありましたが、アートを通してコミュニケーションが促される、というキーワードもいただいたのかなと思いました。

46:12

後半、Keppy さんのあたりで出てきた「自由である」ということや、まちや人を元気にする力があるという点もありました。

山田さんからは、デザインとアートの「主演か脇役か」という話もありましたが、基本的にアートやデザ

インを通して、生活を豊かにしていく力を与えるものだというキーワードもいただきました。

そして、問題提起として、持続可能にしていくためには「アートを購入する」という仕組みや文化が必要ではないか、というキーワードも挙げられたかと思います。以上です。

#### 宮前区企画課：鈴木（司会）

46:48

ありがとうございます。それでは一旦、意見交換①についてはここまでとさせていただきます。この後も意見交換の時間はございますので、次に移らせていただきたいと思います。続きまして、意見交換②「アートの可能性について」の意見交換に移りたいと思います。

意見交換の流れについて、企画課の小西から説明をお願いいたします。

### （４）意見交換② アートの可能性

---

#### 宮前区企画課：小西

47:14

引き続き、意見交換に移らせていただきます。スライド 18 をご覧ください。

47:20

今回はせっかくの機会なので、アイデア出しも含めた意見交換と作業をしていただきたいと思います。先ほどの意見交換の中で、アートの可能性についてさまざまな話が出てきました。

47:34

みやまえ BASE の中でも、「アート×マルシェ」などのように一つ一つを繋げるコミュニケーションツールになる可能性も感じました。今後のアートの可能性をさらに広げ、今後の取組のヒントとするために、「アート×〇〇」というコラボレーション可能なアイデアを、皆様に作業いただいて考えていただき、付箋に書いていただきたいと思います。それを踏まえて、また意見交換を進めていきたいと考えています。

48:03

作業はお手元に付箋をご用意しておりますので、「アートと掛け合わせることで相乗効果が生まれる可能性がある〇〇」について、思いついたものを自由に付箋に書いていただき、簡単な理由なども添えていただけると幸いです。

48:21

例えば、アートってすごい可能性がある。カテゴリー的なところで言えば「アート×食」があったり、「アート×医療」であれば心のケアとして活用できる可能性があります。また「アート×地域活性」であれば、パブリックアートや空き家活用といったテーマも考えられます。

48:36

例えば地域活性といったテーマでいうと、パブリックアートや空き家活用などもアートの可能性があるのかなと思っております。そうなってくると、社会課題とも相性が良いのではないかと感じます。

48:52

先ほど安藤さんからもありましたが、「アート×環境問題」でいうと、リサイクルの廃材を使って、新たな捨てられたものがリサイクルされていくという可能性もあるでしょうし、「アート×平和」であればピカソのゲルニカのような作品もあります。

宮前区は農業も割と盛んですので、何を掛けても可能性はあると思いますので、そういったところを10分間という短い時間で恐縮ですが、付箋に書いていただいて、できたものを順次溜めておいていただき、後で発表していただきたいと思っております。

今から10分間となりますので、ちょうど3時53分になるところですので、2時3分ぐらいまで作業いただければと思います。何かご質問などございますでしょうか？よろしいですか？今から10分間書いていただいて、わからなければ手を挙げていただければ質問に答えます。よろしく申し上げます。

50:25

では、ちょうど10分経ちましたので、最初に終わった有江さんの方から発表していただきます。1枚1枚発表していただいた後に、それに近いものがあれば「似ている」というカテゴライズしますので、自分の順番でなくても手を挙げていただければと思います。まず、有江さんから簡単に発表いただいてもよろしいでしょうか？

**有江さん**

50:27

思いつくままに言えばいいですか？私がいつも散歩に行っているすぐ近くに「第4公園」というのがあるんですけども、「アート×第4公園」そこで私は対話型鑑賞をしたいなといつも思いながら散歩をしています。

51:25

それから「アート×お寺」。先日、宮前区役所主催の歴史ウォーキングに参加してきました。そこで泉福寺にお邪魔し、非常に素敵な絵馬を見せていただきました。文化財として教育委員会の方が説明してくださいましたが、非常に素晴らしかったので、ぜひ対話型鑑賞してみたいなと思いました。

これは先ほど小西さんもおっしゃっていましたが「アート×ケア」ですね。ケアといってもいろいろなことが考えられるので、細かく分けていくとたくさん出てくると思いますが、これは私自身も今後ずっと力を入れていきたい1つの私の中でのです。

52:21

もう一つは「アート×空き地」。宮前区はあまり空き地が見当たらないのですが、登戸で活動されている方がいて、先日登戸の空き地を活用されていました。

52:42

開発途中の中で、そこでちょっと面白い鑑賞の仕方をしたのですが、部屋の中だけではなく、外を使うということも考えられたらどうかなと思いました。以上です。

#### **宮前区企画課：小西**

53:01

ありがとうございます。

53:02

面白いですね。お寺とか空き地とか。確かに歴史文化という意味では、芸術作品そのものですよね。とても面白いと思います。この中で近しいものがあれば、教えていただけますか？

#### **小林さん**

53:18

はい。参加する人がその場所を好きになったり、思い入れのある場所になるんじゃないかなと感じました。今自分がやっていることにも繋がっていると思います。

53:23

自分も今やっていることに繋がっているんですけども。

**宮前区企画課：小西**

53:29

ありがとうございます。引き続き、次、安藤さん、もしよろしければ。

**安藤さん**

53:38

先ほどの「アート×ケア」は私の方でも書きまして、今朝行ってきたんですけれども、聖マリアンナ医科大学病院に行きまして、その院内学級の子どもたち 10 人ぐらいにワークショップをやってきたんですけれども。

院内学級なので、病気を抱えた子たちがいて、笑顔を出すことが難しいこともあるのですが、普段あまりやってない、絵がみんなで描ける体験を通して、辛いながらもワッと弾けるように声をあげたり笑顔になったのがとても印象的でした。ですので、「アート×ケア」という可能性があるのではないかと思っております。

54:44

他にも関連しているもの、他のものでもいいですか。そうですね。「アート×防災」ということも考えていまして、物が落ちてくるときに子どもが頭巾みたいなものをかぶっていたら、少し頭の安全が保てるかなという考えがあります。その頭巾に絵を描いて作ってみるというワークショップがあってもいいかなと思っています。

55:16

あとは「アート×スイーツ」なんですけれども、これは私がワークショップで行っていたのですが、アートクラブを運営してまして、アートクラブのメンバーにパティシエの妹さんがいる方がいまして、その方にアイシングクッキーの体験を講師として教えていただきました。クッキーにお絵かきすることで、アートを作り上げてもらう体験をしました。

**宮前区企画課：小西**

55:50

防災についてですが、山田さんも同じ意見があるとのこと。もし簡単にあればお願いいたします。

**山田さん**

56:06

防災と災害時のことですが、防災キャンプは川崎でも行われていたりするので、そういうところにアートが関わってもいいかなと思います。

また、災害があったとき、体育館や段ボールで仮設の間仕切りを作ったりしますが、そういうところを子どもたちのキャンバスにすると楽しいかなと思います。

一つは、ストレスの軽減が大きいかなと思います。

#### **宮前区企画課：小西**

56:45

ありがとうございます。続きまして、大高さんです。よろしくお願いします。

#### **大高さん**

56:48

「アート×営業できる企業」ということで、うちが株式会社 sisu という会社と契約していて、その sisu は今まで全然関係ない仕事をしていたのですが、自分で起業して、障がい者の方が描いた絵をいろんな企業や病院、個人宅などにレンタルする事業を始めました。第 1 号としてうちが契約して始めたのですが、2 年間で 30 作品ぐらいお貸ししています。

57:26

1 年間で 11 万 4000 円ほど払っていただいて、収入をうちと半分ずつ分け、そこから経費を除いた額が利用者さんに入るという形で運営しています。今 30 作品ほど貸し出していますが、作ってもそのまま置いておくだけでは何も変わらないので、営業というのはすごく特殊なものでなかなか難しいのですが、営業してくださる方がいれば、地域の中にいろんな作品がカフェや病院などに展示されて、人の目に触れて良いのではないかと思いました。

58:09

また、「アート×デザイナー」。作品をデザインして、デザインって素人には難しいので、雑貨やポーチ、バッグなどにデザインを展開するというアイデアも考えました。さらに、「アート×ファッション」として、描いた作品で洋服を作り、市内でファッションショーのようなイベントを行えたら楽しいのではないかと思いました。以上です。

#### **宮前区企画課：小西**

58:38

ありがとうございます。まさに「アート×デザイン」としては、山田さんとかいった可能性がありますね。次に京森さん、よろしいでしょうか？

**京森さん**

58:49

はい。やや抽象度が高いものになりましたが、「アート×古い場所」というアイデアです。

58:58

僕結構思うのですが、いろんな場所性について考えることが多くて、海外や地方にもいろいろ行くのですが、その場所にあるものたちが、その歴史やそこで生きてきたものかどうかということが、この時代だいぶグローバル化してきて景色が変わり、同じようになってきているなと感じます。

59:24

これはアジアの地域でも多く見られます。そういった中で、古いものをどう残すかということが非常に価値が高いのではないかと考えています。川崎や宮前区では、例えば古い工場地帯とか、そういったものの記憶を残して、それをどう未来に残せるかということができると非常に良いなと思います。

また、同じように「アート×お祭り」宮前区の祭りについては自分が参加しておらず、どういったものがあるのか現時点で認識できていないのですが、これも伝統と文化の話だと思うのですが、古いものだけでなく新しく改良されたり、今後それがアートと結びつきながら発展することが、その地域にとっての価値、新しく未来に繋がるものになりうるのではないかと思います。祭りもその一つかなと思いました。

01:00:28

あとは「アート×景色」というもので、これは先ほどのパブリックアートにも繋がりますが、普段日常の中で目にするものが人にどう刺激を与えるかということにすごく興味があります。

意識しないと入ってこないのですが、その中で意識的にそれが自分に入ってくること、無意識の中に自然とそれが入ってくること、それによって何かに気づいたり、瞬間的に思うことが豊かさだと感じており、「景色」というキーワードを入れました。

01:01:07

もう一つは「アート×教育」です。教育で僕が思っているのは、最近デジタルがすごく発展して非常に便利になったと感じています。

例えば AI などもよく使いますが、最短距離で答えを出してしまうということに、良い面はたくさんあるのですが、それと同時に、ある種の「無駄さ」や「遠回り」みたいなものがなくなりすぎていて、そこが少し良くないと感じています。

そういった「無駄さ」ということを、特に小さな子どもたちから、僕にも子どもがいますが、失敗をどれだけ許容できる社会なのか、ということをしごく考えたいと思っています。そういう意味で「教育×アート」としています。

### 宮前区企画課：小西

01:01:58

ありがとうございます。本当に最後のアートと教育の話は深いですね。今は AI で何でもできてしまって「アート×AI」もあるのかもしれませんが、やはり手を動かして自分で考えないと本当に人間の一番重要なところを失ってしまうんじゃないかなと本当に思いますよね。ありがとうございます。

続きまして小林さん、先ほどのものも含めて、よろしくお願いします。

### 小林さん

01:02:33

四つ書きました。全部で五個ですね。さっき 1 個出した公園。今自分がやっていることに繋がることしか書けていないのですが、まず一つは「アート×アートをしていない大人」です。

さっきも言ったのですが、子どもたちや障害のある方たちとアートのような活動をしている中で、自分はどうかというところで、若返るといって、一緒に参加して、自分はどんな絵を描いていたのか、と考えたりします。そういう刺激を受けながら、楽しませてもらっています。「アート×アートをしていない大人」では、自己表現だったり、子どもの気持ちに戻れたり、新しい交流が生まれたりします。

01:03:31

あとは「アート×子ども食堂」です。子ども食堂というと、みんなでご飯を食べるというイメージがあるかもしれませんが、エリーズカフェでやっている子ども食堂は、公園を会場にしている「誰でもどうぞ」というスタイルです。本当にみんなでご飯を食べるということはやってなくて、みんなで遊ぶ。子どもたちも楽しいから来る。

この前のアートのイベントのときにも 50 人ぐらい、おそらくはもっと参加してくれて、みんなで絵を描いたんですけど。みんなで食べるだけでなく、子ども食堂になると、子どもたちもよりそこで楽しめ、その中で新しい繋がりや交流が生まれるきっかけになるのではないかと思います。

01:04:32

あとは、先ほどお配りさせていただきましたドリップパックのコーヒーですが、それを紙に描くだけで、商品にすることで自分が作ったものが世の中に出る。発表されたり、出展されたりする機会になります。

01:04:58

最後に「アート×区役所」です。この企画がそうですが、区民と役所が繋がるきっかけが生まれると。私自身、アートのおかげでこうしてここに参加させていただき、本当に貴重な機会をいただくことができました。本当にありがとうございます。

**宮前区企画課：小西**

01:05:29

ありがとうございます。まさに「アート×区役所」といっていただいてありがとうございます。今後もぜひ発展させていけたらと思います。

続きまして須田さん、よろしいでしょうか？ すみません、発言の機会ができなくて。

**須田さん**

01:05:45

弊社スペリアルでやっていることが「遊休不動産活用」ということで、その文脈で「アート×遊休不動産」と書きました。少し空き地ともかぶるのですが、実際に宮前区宮崎 6 丁目の「シェアトラックス」という大型シェアハウスを運営しており、そこの元管理人室だったものを、レンタルスペースとして活用しており、実際にギャラリー利用などもされております。

こうした遊休不動産を活用したギャラリー利用やアトリエ化をすることで、次世代のアーティストの方の支援になるのではないかと思います。「アート×遊休不動産」と書きました。

**宮前区企画課：小西**

01:06:29

ありがとうございます。こういった展示の場所は、この後の議論の中でも出てくると思いますので、またそこに繋がると良いなと思います。ありがとうございます。宮本さん、よろしいでしょうか？

**宮本さん**

01:06:42

私が考えたテーマとしてはですね、「歩きたくなるまち宮前区」というテーマから、少し前にお話を聞いたときに、独居老人など、外に出なくなる高齢者の方々が増えてきて、団地の中での交流も難しくなっているという話をちらっと聞いたときに、ビルの隙間がアートになれば良いなと思いました。

例えば漫画のコマのように、1コマ目、2コマ目、3コマ目と歩いていくと漫画が読めるみたいな仕組みにする。ビルの隙間を美術館として活用するというアイデアです。これは漫画がいいのかは置いておいて、隙間を貸してくれた方にも賃料をきちんと支払い、元のお金はどこから来るかというのは一旦忘れて、アーティストの方にもきちんと対価を支払うことができる。

01:07:42

持続性で言うと、マネタイズをしっかりとしないといけないと一過性のもので終わっても意味がないというか、そういう点で、ビルの隙間の有効活用というのは、「こんなところにあるの?」という場所にあると、少し歩いてみようかなというモチベーションにもなってもらえるのかな。というのが一個。

01:08:05

あと一つは、散歩の途中に写真を撮ってもらう「まちの写真家プロジェクト」です。自分の感性で面白いと思ったら写真を撮ってもらい、それを宮前区のアーカイブに集めていく。送れる先があって、どんな方でも閲覧できるようにし、マンションの中に引きこもっているおじさんもそれを見て「ちょっと俺も見に行ってみようかな」「こんな花が咲いているんだ」と気づいて外に出ていく。

人を外に引っ張り出す力がアートの力なのではないかと思います。私はテレビ制作の人間なのでアートは専門外ですが、人の心をどう動かすかということに関しては、30年テレビをやってきたので、くすぐるポイントはやはりあると感じています。その辺をアートに取り入れられたら面白いのではないかと思います。以上です。

**宮前区企画課：小西**

01:09:00

ありがとうございます。本当に実はこれ、地域テーマの中でも今年のテーマにも通じる話でして、昨年のテーマは終活だったんです。なぜかというと、宮前区は実は高齢化が最も進む地域の一つで、何かできないかという議論がありました。

まさに今後、引きこもってしまう高齢者の方々が増えていく中で、アートで何ができるのかというところは、いろいろ考えていく中で非常に面白いアイデアだと思います。アートを絡めていくという点で、ありがとうございます。

続きまして、Keppyさん。

### **武藤 (Keppy) さん**

01:09:31

何か出ているところで、同じようなところもあると思いますが、先ほどの「アート×老人ホーム」や高齢者施設の話などでも、その施設の中では作品制作をしていると思いますが、そういうものをパブリックな場所などに展示する機会があれば、お友達やご家族の方々が、しいてはご本人の方々も、それが出かける意欲や自信にも繋がるのかなと思いました。

さらに、「アート×まち」先ほどシャッターの例も出しましたが、街の中にアートを感じられる場所や発表の場が増えれば、地域の活性化や郷土愛、つまりこの地元で生きてきた、コミュニティの中で生きる自分という価値も生まれるのかなと思います。

01:10:27

出ていないところで言う「アート×ツアー」というアイデアも考えました。観光。川崎市内にもいろいろなアートがあるので、それらを一日で巡るツアーを企画すると面白いかもしれません。例えば美術館の作品もあれば、ストリートアートの作品もあり、ガイドの方が説明しながら回れるようにしたら、楽しそうという意見です。

さらに公園とも繋がるかもしれませんが、森林管理をしているところでは伐採した廃材などの廃棄物を有効活用して、竹細工などを作るといったことも考えられます。そういうアートができたらいいのかなと思います。

01:11:16

最後は「アート×子ども」で、京森さんもおっしゃっていましたが、教育にも近いかもしれません。子どもたちが気軽にアート制作もできるようなパブリックな場所が、例えば安曇野のように大きな施設で自由に伸び伸びできるような場所があるといいかなと思いました。以上です。

### **宮前区企画課：小西**

01:11:40

ありがとうございます。確かに宮前区は先ほどの話にあったように森が多く、竹もかなり繁茂していて、

宮前区としても課題となっている中で、竹灯籠に活用する取組をしている方もいらっしゃいますので、そういった活動を知ってもらうのも良いでしょうし、先ほどの「アート×観光」のところでも、宮前区には実は観光としても良い場所がたくさんあるのですが、なかなか知られていない場所も多く、アートを通して知ってもらうというのは非常に良いのかなと思います。ありがとうございます。

引き続き、山田さん、お願いします。

## 山田さん

01:12:13

身近なところで、うちは花屋をやっていますので、「アート×花」お花はアートにかなり近い存在ですけども、多分それは割と活けるというか、切り花の方だと思うんです。うちは鉢物で土が付いている方なんですけど、割とうちは7月、8月はお店を閉めてしまって、花が余ったらやっぱり廃棄せざるを得ないんですね。そういうのを活かしてもらってもいい。

01:12:47

同じく、うち花屋をやっているんですけど、生産の農家でもあり、みかんとかイチジクとかを作っています。割と柑橘系もカバーしています。最近はピールを食べるワークショップをやったり、アロマをやる人、蒸留して作る人が来て、そういうのを使いたいと言われてたりしています。

割と香りに使ってもらったりといろいろありますので、それもアートに実は使ってもらえたらいいんじゃないかと思いました。あと私はPTAをやっていたので、中学校の関係とかで、体育祭も実はアートがあって、大体みんな団旗っていうか、各組で作るんですよ。

あれすごくよくできていて、本当に感動するんです。あれでも校内のものしか絶対見られないじゃないですか。もったいないなと思って、ああいうものをちゃんと写真に撮ってコンテストっていうか、宮前区でやるとか、川崎市でやるとか、優勝者の上部大会があっても面白いんじゃないかなと思っています。

01:13:55

最後にもう一つ、PTA 関係でフェスティバルというのがあるんです。これが厄介者ですごく嫌われてもいて、PTA 自体が嫌われているんですけど、その話はちょっとややこしいので置いておきます。

自主的にやっているところが多くなって、我々も自主的にやっているんですけど、親の中で絶対絵描ける人や、こういう活動をしている方が必ずいるので、何かそういうものを展示できたり、また関わってもらったりすることも実は中学校とかでもできたりするのではと思っていました。以上です。

## 宮前区企画課：小西

01:14:28

ありがとうございます。団旗そんなすごい作品があるんですね。やはり PTA で確かに親御さんも多く、宮前区にもアーティストの方が親御さんの中にいらっしゃると思うので、本当に学校に関わってもらいとすごく良いですね。ありがとうございます。

最後に和田さん。

## 和田さん

01:14:47

ペンギンカフェの和田と申します。うちは「重ね煮」という食事の療法と、ローフードという真逆の考え方なのですが、それが、一つのプレートの上に乗ることで中庸として体が温まるお食事が作れるのではないかということでオープンさせていただきました。そして「アート×食育」。うちの近くには幼児教室がたくさんあるんですね、狭い中に。

そこに子連れの子どもたちを育てているママさんたちに、今は本当に、何でもチンしてしまえば食事ができてしまう時代ですし、多分良いお店に行ったらすぐ食事もできるんですけども、私がこのお店を開いたのは、自分が食べに行きたくて食べたい食事がなかったんですね。

01:15:45

だったら自分で作ってしまおうと思って始めたのですが、やはり手をかけて思いを込めて作ったものは絶対に味が違うんですね。チンして温めたものとコトコト煮込んで作り上げたものでは、栄養効果もそこに宿っているエネルギーも全く違います。

01:16:08

私は、食事がきちんとしていけば本当に病気にならず、薬もいらず、ちゃんとした老後を迎えられると信念を持って今やっています。そういう食事を伝えるのはなかなか難しいのですが、今「かさねのご飯会」という会を開いて、そこに何人か毎回来ていただいています。ここにアートが加わって、例えば子どもたちに絵本にして…

01:16:43

絵本の読み聞かせとか、紙芝居とか、そういうもので見てもらって、そこから一緒に作ったり食べたりできたら、もっと身近になるんじゃないかなと考えました。それと、昨日やったのが「アート×朗読会」。

朗読だけじゃなくて演劇でもいいのですが、ユニコーン画家のSUZUさんという方がいまして、その方が半年かけて昨日のためにずっとご用意してくれた絵があるんですね。ユニコーンの絵の展示会と、その方が自分でオリジナルで作った『星の王子さま』を題材にした物語があって、その読み聞かせをしていただきました。

そこに1枚絵があるだけで入り方が全然違って来るんですね。ただ空想で朗読を聞いているのと、そこに1枚の絵を見ながら聞くのとでは全く変わってきます。

01:17:47

こういう取組もいいなと昨日は感じました。それと、あとはコミュニティで、コミュニティはすごくこれから大事だなと。この分断の世の中になってきているので、小さなコミュニティがたくさんあったらいいんじゃないかなと私は思っていて、それを次、私のカフェでやりたいなと思っています。結構いろんな歌う歌で集まってくれたり、いろんな意味で、2年なんでそんなに大きくはないですけども、そういう方たちが集まってきてくださっています。

01:18:22

今度、マコモってありますよね。マコモを自然農法で作っている方と出会いまして、その方が採ったそのマコモでイヤリングを作ったり、小物を作るワークをやりたいと申し出てくださいました。そういうもので、ちょっとしたコミュニティで作る喜びも味わってもらえたらなと思っています。

01:18:48

それとあと、うちの前に東急さんの工事が入りまして、あの巨大な壁が立ちはだかっているんですね。カフェオープンする前からそうなることはわかっていました。2年後には取り壊しになるからここは間違いなくなくなるというのはわかっていたんですけど、いざ3mぐらいの壁が目の前にバーンと来ると本当に心折れるんです。真っ白なんです、目の前が。

それで私のお店だけじゃなく、その裏通りにあるお店は全部一緒に取り壊されると思って追われていたり、売り上げも本当半分以下になってしまったりということが今起きています。

01:19:33

この壁が森のような絵があったらいいのになと私ちょっと思ったときに、安藤さんがストリート絵画でしたっけ、壁に絵が描いてある写真を見せてくださったんです。こんなふうに行っているところがあるよって見せてくださって、そう、ここがキャンバスになったらいいなと思いました。

01:19:54

でもそんなうまくいくかなと思ったときに、**多度さん**という子どもと一緒に描く画家の方がいまして、この方がたまたま去年うちで親子のアート展をやってくださったんですけど、その方にお声掛けしましたら、大きなキャンバスで目を輝かせてくださって、ずっと東急さんと交渉していたんです。

01:20:22

このチラシはずいぶん前からできていたんですけど、東急さんの OK がなかなか下りなくて、つい 3・4 日前に東急さんが OK を出してくださいました。消せるものという条件なんですけれども、水性のもので一瞬のアートなんですけれども、これで今 6 月 15 日と 7 月 13 日、あの巨大な壁に自由にみんなで絵を描いて楽しむということと、それを見に来てくださる方がいれば、あの壁の後ろにもちゃんとお店があって経営しているんだよということもわかっていただけるし、ちょっと話題になってもらえたら嬉しいなと思っています。

01:21:11

あそこ前は東急さんの駐車場に抜けられていたんですけど、今は行き止まりになってしまいました。行き止まりになったというのをプラス思考で考えると、その空間が自由に使えるんだなと思ひまして、夏に子どもたちに喜んでもらえるようなお祭りができたらいいなと。

01:21:31

まだそのときは絵がアート展でありますから、お祭りを 8 月ぐらいに企画したいなということで、お客様に話したら、「かき氷の機械があるよ」とか、「綿飴作りだったら、綿飴の機械を貸せるよ」とか、いろんな方が声を上げてくださいました。

後ろの街の商店街を巻き込んで、楽しい企画ができたらいいなと思ったら、あの壁も急にキャンバスに見えてきました。10 月まで長いと思ったんですけど、10 月末で消えてしまうのは勿体ないなと思うようになりました。それをこれから宣伝して進めていきたいと思っています。

01:22:16

**宮前区企画課：小西**

ありがとうございます。まさにアート、まちを元気にするというのが形で、壁だったものがキャンバスになって、それが元気にするきっかけになるのはアートの力ですね。ありがとうございます。

01:22:32

せっかくなので、市民文化局の青木さん、今出たアイデアの中で面白いと思ったものはありますか？

**青木さん**

01:22:50

そうですね。たくさんお話出していただき、どれも魅力的で楽しそうで、やっぱり共通するのは、やることでみんなが元気になる、楽しい思いができるようになる。そこで1人がただ単純に楽しむということもあると思いますが、それをきっかけにいろんな人に派生して、いろんな人が関係して繋がって、そこに楽しい活動が生まれてくる。

01:23:16

さらに先に広がっていくというのが、やっぱりまちの中に欠かせないんだなと感じました。我々もアートホールという活動を掲げている中で、地域課題にアプローチしていこうというところがございまして、そういうところにも皆さん目を向けていただきながら、一緒に楽しくアートを使って、「楽しく」というのがポイントなのかなと。

みんなが参加してもらえるように、せっかくやるんだから「楽しく・嬉しく」なるような取組というのがいいよね、というのが共通してお話があったので、どれも魅力的でしたし、どれも本当に実現できたら、なんか素敵だなと。実際進行されているプログラムもあると思いますが、本当にそういうものを地域でやっていただいて、「本当に宮前区楽しいですね」というのが率直な思いです。

**宮前区企画課：小西**

01:24:20

ありがとうございます。一旦、まとめていただいているので、千葉さんの方から説明していただいてもよろしいでしょうか？

01:24:29

**千葉さん**

ありがとうございます。いろいろ出てきたので、全部をというより、どういう構造かなと思って見ていたときに、一つは場所性。意見交換③にも繋がってくることなんですけど、まちというもの、宮前区というものの中にどういう場所的な可能性があるのかというのを左側に寄せてみました。

また、第4公園という話もありましたが、第4に限らず、公園という一つの場所はアートがなくても人が集まる場所ですが、そこにアートが加わることで新しい可能性が生まれてくる。

01:25:05

子ども食堂を既にやられているという話もある中に、さらに楽しみ、食べるだけではない繋がりがアートでできてくるという講演の話。そしてビルの隙間というのは、いろんな場所、建物の中にある空いた空間のことかなと思いました。

01:25:28

こういう空き地、空き店舗、あと空き物件とかいう、もしかしたら本当に場所的な隙間みたいなこともあるかもしれない。そういったことが活用できるっていうようなお話も出てきました。

01:25:40

あと、お寺とかそういった場所と、あと古い場所を残すっていう歴史の話が出てきました。こういうまちの中に元々ある、すごい秘めた歴史的なポテンシャルのある場所みたいのところっていうのも一つアートというものと繋がっていく可能性がある。景色とか風景とか、一つの元々ある風景がアートが加わることによってきっと見出されていくものが広がっていくっていうこともあるのかなというふうに思って、伺っていました。

01:26:13

あと区役所、そもそも今回の話で区役所というところからの可能性、老人ホームとか遊休不動産とかっていうふうに関係する場所とアートの可能性があって、どんどん、森とかまちおこしとかっていうようなことにも繋がってきたと。

01:26:31

特に工事をしている期間というのがまちの中で、ちょっと元気がなくなる期間だと思うんですけど、そういう場所のフェンスとかにアートがあるとか、その待っている間をすごく上げていく活動っていうのにアートとかワークショップっていうのはすごく使えるような体験を私もしております。

01:26:49

何かそういったことが可能性になるということで、一つは場所とアートが絡むことによって、可能性はあるよねと。もう一つ大事なのが人が外に出るきっかけになるっていうことと、場所外という空間が出てくるんだとアートとケアみたいな話がありましたが、本当に障害を持っているとか、病気の人だけではなくて、家に閉じこもって出て行かない人という人たちも含め、アートで外に出てくる機会があったらいいと。

そこから、ソフト的な話でまちの写真家プロジェクトであるとか、アートのツアーであるとかっていうふうには、見るだけではなくて自分が関わりやすいアートのプロジェクトがあるのかなというふうに思い

ました。

01:27:33

次に教育というところを真ん中に書かせていただきました。教育があることでAIとかの時代の中でより無駄なことが許される発想、よりアートを通して自分の頭で考えるようなことが求められているのかなって。

01:27:47

PTA との関わり、あと体育祭とか学校にある既存のものがもっとアートと一緒に活性化していく可能性がある。あと、朗読会とかドリップコーヒー・パックコーヒーとかっていうのもアートをやることで社会に発信していくということがあるだろう。子どもだけではなく、アートをしていない大人がさっきの話でちょっと気づきに繋がるってことも非常に大切っていう話もありました。

01:28:15

あと、アートと防災というところの絡みの中で、防災頭巾を作ったらとか、あと避難所とかの壁を書くイメージなんですかね。そういうふうに防災の中にアートが加わっていくことで、少し防災の感覚を変えていくことができるというのもあったのかなと思います。

01:28:33

あと下の方に割と食の話を入れているんですが、その食の中で印象的だったのが、廃棄するものを活用するみたいな話があり、食に限らず花も出ていたので、元々まち中にある宮前区ってこういうものがよく取れるよね、結果捨てているよねみたいなものが、もしかしたらアートの材料になってくると「宮前らしい」みたいな話になってくるのかなと思いました。アートとまちみたいな広がりとして捉えたときに、既にある資源、捨てることも含めた、ものを資源として捉えていくみたいなことも考えられるだろうと。

それと、多分表裏一体にコミュニティというものがアートの中ですごく重要な役割を果たすのではないかというふうに読ませていただきました。以上です。

#### **宮前区企画課：小西**

01:29:22

ありがとうございます。すごくいっぱい出てきた中でうまくまとめていただいてありがとうございます。最後にできたコミュニティというところが本当にアートホールの取組もそうですけど、アートを通じて繋げると、宮前区もそうですが、コミュニティが希薄化している中で、いろんなきっかけでみんなをまた繋げていきたいという中で、本当にコミュニティアートっていうのはその一つのトリガーになるのかな

というのを改めて思いました。時間が押しているので次に進みたいと思います。

## 宮前区役所まちづくり推進部企画課：鈴木（司会）

01:29:54

それでは続きまして、意見交換③「アートを展示する場所の可能性」に関しての意見交換に移りたいと思いますが、意見交換の前に、今年度宮前区の市民提案型総合情報発信事業として採択されました宮前区役所アートの発表の場として活用していく取組について、安藤さんからご説明お願いいたします。

## アートを展示する場所の可能性 | 事例紹介

---

### 安藤さん

01:30:20

それでは続いて、宮前区役所との共同事業のご紹介になります。事業名としては「区民全員アーティスト宣言！宮前区役所つながる美術館」です。こちらのスライドの通りにご説明いたします。

グループ名「YOU & I are Earthling Project」、略してアースリングスプロジェクトとして、こちらの事業は取り組んでおります。アースリングスとは地球人という意味であり、国籍も宗教も障害の有無も関係なく、私たちは地球で暮らす者同士、よりよい社会に向けてクリエイティブの力を使ってのD&I（ダイバーシティ&インクルージョン）、そしてウェルビーイングの実現を目指しています。川崎市や都内を拠点として集まったイラストレーター、グラフィックデザイナー、映像クリエイター、広告代理店とクリエイティブの職業メンバーで構成されております。

01:31:26

ここからは事業の説明となります。「区民全員アーティスト宣言！宮前区役所つながる美術館」というテーマで、宮前区をもっと好きになり、まちづくりに関わるきっかけを作る。そして、未来を担う子どもたちの想像力を育むことを目的としています。

01:31:45

そのために宮前区に暮らす人、働く人、関わる全ての人は、よりよい明日を作るアーティストだと考えます。そして、区役所をアーティストである皆さんと行政の方が協力しながら、豊かな未来を描き、表現する生きた美術館に見立てます。

この思いを形にするため区役所を活用し、皆さんのアート作品展示はもちろん、アートを通じた交流の

場を作る企画を次々と発信していきます。

01:32:16

続いて事業の全体像のご説明です。メインの活動として、(A) ロゴマークをみんなで作ろう、(B) 繋がるみんなのアート展、そして (C) アートワークショップ&ライブペイントを行います。「(A) ロゴマークをみんなで作ろう」は区民からロゴマークを募り、区民による投票で30個程度に絞り、最終的に4名の審査員の方に選定発表を行います。

01:32:46

(B) みんなのアート展はプロアマ問わず市民の皆様に呼びかけ、アートを集め、区役所の空いている壁などのスペースに展示を行い、企画中は訪れた区民の方にアートを見て回りながらスタンプを集めていただきます。そして (C) ワークショップやライブペイントを夏休みの子どもやその他、大人たちにも広報し、参加者を募ります。期間中二度ほど区役所内で開催いたします。それぞれの詳細をこの後ご説明いたします。

01:33:22

それでは、主な事業の活動の内容の説明に入ります。まず、ロゴマークの説明です。市民の方々から集まったロゴマーク、手書きのものでもOKとしますが、それらを区民の投票で30個程度までに絞り、4名の審査員の方に見ていただきまして選びます。グランプリと準グランプリには景品をプレゼントいたします。決定したロゴはデザイナーが微調整してデザインデータとして製作します。

01:33:55

作ったロゴは、この後のイベントの告知や制作物に今後も使ってまいります。こちら4月の半ばより全国公募で事業のロゴマークを募集しておりまして、今日の消印有効となり締め切りとなりますが、現在は本日お聞きしましたところ、100件以上の作品が既に集まっております。商品は高津区の日本理化学工業様から提供していただきました。

01:34:17

続いて先ほどと重複しますが、繋がるみんなのアート展の説明になります。先ほどのご紹介が試験的に鷺沼会議室で行ったものになっておりまして、こちらプロアマ問わず集まっていただき、自分たちでサポートしあって展示します。

01:34:42

こちらが実際にまだ区役所には展示を行っていませんが、私が合成して作りました区役所の中への展示

イメージとなります。実際に区役所内で展示した後の付近にスタンプスポットを設置し、スタンプラリーをしながら全体を楽しんでもらうように工夫いたします。

01:35:10

全て集めることができたら、プロのアーティストの展示した絵を葉書にしたものを数枚セットにし、先着 100 名様程度にプレゼントを予定しています。

01:35:33

続いて (C) のワークショップについてですが、主に夏休み中の子どもたちに呼びかけ、ワークショップやライブイベントを想定しています。こちらはワークショップを実際に行ったときの写真です。このように窓などを使ってのライブペイントも行い、公開イベントとします。

01:35:51

宮前区内でイラストの仕事やライブペイントを普段からされているプロの方への依頼を想定しています。事業のゴールをお伝えいたします。宮前区に関係する老若男女がアートを通じて生き生きと関わり合い、それぞれのできる範囲で自ら町を良くしていこうと働きかけ、繋がっている状態を目指します。

01:36:13

よってこの事業は本来サスティナブルなものであるべきで、ゴールはないものだと思っています。ただ当該事業年度の一つの成果指標として、今取組の区民の方の評価や参加してくれた方の満足度、こういう取組が継続することに対する期待値などを設定し、翌年以降の課題にしていきます。

01:36:29

今回の美術館の例に限らず、先にお伝えした事例を通して様々な取組のアイデアがあっても、持続するためのスポンサー探しなど資金繰りやコミュニティ運営、開催場所も現在は課題となっております。

私からの発表は以上となります。ありがとうございました。

**宮前区役所まちづくり推進部企画課：鈴木（司会）**

01:36:59

安藤さんありがとうございました。それでは③意見交換、アートを展示する可能性の場所に関する意見交換に移りたいと思っております。意見交換の流れについて企画課の小西から説明いたします。

## (5) 意見交換③ アートを展示する場所の可能性

---

宮前区企画課：小西

01:37:13

今日最後の意見交換ということで、時間押してしまって申し訳ないんですけども、最後意見交換をさせていただければと思います。今、安藤さんから事例発表いただいた区役所をアートの発表場として活用することをきっかけに、区内のカフェとか、そういったところに展示する場所を、さっき大高さんのところからもありましたけれども、せっかくアート作品に触れてもらう機会を増やすために、広げていきたいなと行政としても思っているところです。

01:37:44

それに向けて、どういった課題があるのかというところを、実際そういったアートの発表の場で苦労されたご経験もあるかと思えますし、お店経営されている方もいらっしゃると思うので、まずどういった課題があるのか、それをクリアするにはどうしたらいいのかというところを、今日の意見交換で正解は出ないと思えますけれども、アイデア出しができればいいかなというふうに思っております。

まず最初に和田さんにお伺いしたいのですが、ペンギンカフェさんでも展示などされているかと思いますが、それをやる上で課題というか、広げていく上でやってみて感じた課題があればご意見いただけるとありがたいです。自分のお店でも、例えば空いている壁とかを活用する場合に、どのような課題があるのか。もしなければなくても構いません。

和田さん

01:38:34

課題はあります。展示はよく申し出いただくんですけど、今のところうちの壁面が珪藻土なんです。打てないというか、重たいものができないので、上から吊るすようなものをやろうかなと。今後そういう展示が増えるようでしたら、そういうものを設置した方がいいのかなとか思うんですけども、なかなかそこに踏み切れなくて。

そこができればいろんな方から、展示させてくださいっていお申し出いただいているので、そういうことも今後はしていきたいなとは思っているんですけども、壁が課題です。

宮前区企画課：小西

01:39:24

賃貸で借りてるところなので、やっぱりそういうのを打ち込んじゃったりすると…

**和田さん**

01:39:29

そうですね。賃貸とかではなくて、傷がついたり、あとは珪藻土で固いので普通のものじゃ駄目で、ちゃんと打ち込まなきゃいけないというのがあるんです。あと、プロジェクターで大きな画面で映すところが壁で、一番大きいんですけど、そこに何か付けちゃうと今度プロジェクターで映したときに影になってしまうっていうのもあって、そこがちょっとクリアできないとなかなか。今のところ、テーブルの上に置いていただいているんですね、壁にはかけないで。そうすると本格的な展示はちょっとできないのになって、数が限られちゃうなっていうのがありまして、今後そこに取り組みたいとは思っています。

**宮前区企画課：小西**

01:40:12

ありがとうございます。非常に具体的な課題で聞くと確かにその通りだなというふうに思います。ありがとうございます。

須田さんとか多分いろいろ活用してやられていると思うんですけども、実際どうでしょうか。そういうのを広げていくという観点において課題とかもしあれば。

**須田さん**

01:40:35

そうですね、シェアトラックスはこの区役所から徒歩で5分程度なんですけど、で言うと、特にあまり課題を感じてないというのがあります。実際ギャラリー利用とかもあるので。

ただ他の場所で言うと、弊社の運営施設でいうと、1階が雑貨屋さんとかカフェとかの店舗になって、2階がシェアハウスになってる、台東区で遊休不動産を活用したものがあるんですけども、元々こちらは敷地内の壁画を利用して、いろいろアートとかも描きたいっていうふうに構想はしていたんですが、ちょっと近隣住民様との折り合いがつかなくて、それはできなかったという課題はありますね。

でも、それは弊社の課題というか、課題と言えばそれぐらいかなというのがあります。

**宮前区企画課：小西**

01:41:32

その近隣というのは、外に絵を描くことで景観みたいなところ…

**須田さん**

01:41:38

敷地内だったので、それほど周りとは関係ないんですけど、ただ、台東区自体が歴史の古いエリアということもありまして、そういう派手なものはやめてほしいという方もいらっしゃるというところで、あまりできなかったというのがありますね。

**宮前区企画課：小西**

それ以外だとそんなに大きな課題はないんじゃないかと思います。

**須田さん**

特にシェアトラックスでは、例えば何か企画やりましようとなったら、それは全然やれるかなと思っています。

**宮前区企画課：小西**

01:42:20

ありがとうございます。先ほど大高さんの方も、既に取り組まれているというところで、民間の施設でも、そういうところの課題とかもし教えていただけると。

**大高さん**

01:41:34

ミュージア川崎はやったことがあって、あと、多摩区役所とか、川崎でいうとそれぐらいかな。今はあざみ野ギャラリーあざみ野という場所とか町田の方とかでやったりしています。もし宮前区でもやればぜひやりたいんですけども、宮前区役所はちょっと狭くてですね、言いづらいんですけど壁がもう少し白かったらとか…何か絵を飾りたくなるような感じではなくて…広めの白い壁があるような場所をいつも使っています。

01:43:27

あと、問題点を感じているのは、アートフォーラムですかね、川崎駅にある。川崎駅のすぐ近くにあるアートガーデンは1週間単位なんですよ。やっぱ市民の方、絵画教室とかやってらっしゃる方たちって、1週間とか子どもの造形教室とかそうなんですけど、大体3日間とか、そういうのはありがたかったりするんですよ。そういう、期間の問題とか、場所・空間の問題とか、費用の問題とかで、もうちょっと使い勝手の良いのが宮前区にあったらいいないつも感じております。

**宮前区企画課：小西**

01:44:13

ありがとうございます。まさに先ほどレンタルでやっているというような事例は、どういうふうに場所を見つけた形になるんですかね。

**大高さん**

01:44:31

レンタルの方は営業をしてくださっていて、保険会社さんとか、某有名スポーツ会社の六本木にある本社のエントランスにレンタルしていただいたりとか、クリニックですね、歯医者さんとか内科とか、いろんな病院の壁に飾っていただいています。画鋸で刺してキャンバスなので、キャンバスを引っかける感じで飾っています。画鋸の穴しか開かないので、F35 ってちょっと大きいんですけど、それくらいのサイズまでは飾っていただいています。

**宮前区企画課：小西**

01:45:12

じゃあ、営業をちゃんとかければ割と興味を持ってくれるところはあるってことですね。

**大高さん**

01:45:18

企業の方たちも利点があるというか、皆さんに癒しを提供できますし、そういう取組をしているということも言えると思うので。

**宮前区企画課：小西**

01:45:30

なるほど。ありがとうございます。他に自分の作品とか展示してもらった方がいる人とかっていらっしゃいますか。Keppy さんとか、展示とかするときどういう工夫をされているとかありますか。事例というか、展示場所みたいところで。

**武藤 (Keppy) さん**

01:45:52

自分のというか、もし地域で展示するとしたらの課題としてふと思ったのは、壊れた場合にどう対応するかとか、日本では可能性は薄いですけど、もしも万が一盗難されたらどうするかとか。人がつくのかとか、あとは資金的なところ言えば、壁側に払うお金とアーティストに入るお金と、販売する際はどうかとか、そういうところが問題になってくるのかなというふうに思いました。以上です。

**宮前区企画課：小西**

01:46:30

ありがとうございます。安藤さんとか病院とかいろんなところと連携しているというところで、可能性についてももしあれば。

**安藤さん**

01:46:44

そうですね、場所的な可能性で言えば、私バスに乗って移動することがすごく多いんですけども、車を持っていないので。

そのときにいろんな会社があるなって、宮前区内にちょっと目につくようになりまして。というのも、以前鷺沼会議室というところで展示させていただいたときに、さっきもちょっとご紹介したんですけども、使われていないスペース、階段の部分とかでギャラリーをすることができたんですね。

なので、そういうところ、階段とは限らないですけども、使っていない壁って結構あるんじゃないかなと感じました。そういったことを企業の方とお話していけたら、何か可能性に繋がるのかなって思いました。

**宮前区企画課：小西**

01:47:39

ありがとうございます。先ほどの鷺沼シェアオフィスのところでも、まさに階段のところを運営されている方と話し合っって使っていいよという話になったということですよ。ありがとうございます。

先ほどの宮本さんのところであったビルの間隙を活用していくのってまさにそういう発想に近いですよ。ね。

**宮本さん**

01:48:00

はい、思います。難しいですけども。戸建看板の営業会社とかもあるので、そういうところに情報収集をしていくとか。そんなところに看板立てたんだっていうところあるじゃないですか、国道 246 沿いとか。ああいうプロたちが見る隙間っていうのが実は価値があるんじゃないかな。あまりコストをかけずに有効活用できるものをする。いかにコストを下げるか。既存のものをどう掛け算していくかっていうのは、僕が面白いと感じているテーマですね。

## 宮前区企画課：小西

01:48:45

ありがとうございます。先ほど安藤さんからも課題で提示していただきましたが、やっぱり運営するにはいろんな課題があって、先ほど仰っていたようなお金の話もそうでしょうし、場所をどうやって見つけるのかということもやはり課題になってくるのかなというところですね。

地元アーティストの方がいらっしゃるといことと、場所が見つかって、展示場所が有効活用されること。先ほど皆さんが仰られていたようにお金がかからない形で実現できれば、もっと作品の場所に触れる機会が増えるのかなというところで、我々としても今後、増やしていけるような議論を重ねていきたいなと思っています。

小林さんとかも実際エリーズカフェとか運営されていて、そういったところを活用するという観点でどうでしょうか？

## 小林さん

01:49:40

うちの場合で言うと、別の福祉事業所さんから飾って欲しいですと相談を受けて、うちの中に飾ったりもしています。

あとは実際にやっていることですけれども、公園の看板を作ろうっていうのをやらせてもらっていて、子ども食堂に参加した子たちと、大きい木の板に好きな絵をいっぱい描いて、それを公園の看板にして、公園に掲示するというのをやっています。そういう面では役所の方に相談しながら、やっていいのか悪いのかっていうのは聞きながらやっています。

あとコーヒーのドリップパック、販売してくれているところが10ヶ所中4ヶ所あるんですけども、うちで売るのはなくて、他の施設が受付のところに置いてくれています。パン屋さんとかそのクリニックとか、ピアノ教室とか、あるいは福祉施設とか、本当いろんなところが置いて下さっていて、本当ありがたいなと思いながらやっています。

## 宮前区企画課：小西

01:51:05

やはり、自分の事業と関係があるところからまずは広げて、協力していただいているということですよ。ありがとうございます。

山田さんは、お店とか経営されている中で、課題とかって何かあったりしますか。もちろんお店のコンセ

プトもあるかと思うんですけども。

**山田さん**

01:51:26

まだ課題まで行き着いてなくて。うちはまだオープンから7ヶ月ぐらいなんですけど、ギャラリーっていうよりかはお店で、そういう場所は一応あって、1ヶ月に1回変えているところはあるんですけど。今度6月18日から完全にアートなものは、やるんですけど、そのときにどうなるかって感じですかね。まだ課題まで行き着いてないです。

同じ場所で、テーブル一つと棚一つと、あとお店の壁を使ってということになっているので、一応そこでできる展示を待ち、彫刻的な感じですかね。物を展示するというのをやるんですけど、やってみて課題が見つかってくるかと思っています。

**宮前区企画課：小西**

01:52:20

ありがとうございます。京森さんも、もしそういったところでご自身もやられている中で課題とかもしあれば。

**京森さん**

01:52:31

僕はアート活動をしながらかアーティストとして、それで生計を得ている部分があるので、その自分がアート作品を展示するってなったときの選び方・考え方としては、やはりどれだけ人が見てくれるかということが一つ重要だと思っています。

あとは、自分の作品を売ったりする場合は、それがどう販売に繋がるかっていうことが一つ重要だと思います。また、最近は芸術祭っていろんな場所とか国でもあるんですけど、観光とアートがどう結びついて、そこにどれだけ人が来て、そこで発するお金的なこととか経済的なこととかが経済効果に結びついて、アーティストを周知することとか、それに公募展みたいな感じでオープンに募集をかけるようなこととかっていうのもあるかなと思います。その考えの中で、今の話を聞いていて、マッチングなんじゃないかなというふうに思いました。

01:53:37

展示したい方と作品を作って見せたい方のマッチングする場所が明確にあったら、そこには多分、まずお金の話じゃないところだと思っています。自分の作品を作って、僕も駆け出しの時はそうなんですけど、

まずは「見て欲しい」が一番最初にあるので、見て欲しい場所を作れるのであれば、壁があるとかお店とかいろんなところがあると思うんですけど、そこまで知らないっていうのがある。そこが今の時代だったらオンラインなどで、情報交換できる場所があるとお互いにとって、ハッピーなもの生まれるんじゃないかなと感じていました。

#### 宮前区企画課：小西

01:54:22

ありがとうございます。

まさに今後、お金がそれほどかからずにマッチングする役割のプラットフォームがあって、展示したい人と展示できる場を繋げられれば、今言ったような課題解決ができそうな気がしますよね。

ちょっとお時間が来ちゃったのですが、きっかけとなる部分やヒントを得られたのかなというふうに思っております。最後ちょっとまた千葉さんの方からまとめていただけると。よろしいでしょうか？

#### 千葉さん

01:54:57

皆さんお疲れ様でした。展示する場所というときにどこに展示することが可能なのかっていうところがあり、壁があれば展示できるというよりは、展示をしてもいい壁かどうかっていうことがあるよねってことがわかりました。例えば、珪藻土だとかっていう話もあるし。

01:55:20

でも一方で、その壁的なものというのはいろいろあるよねと。まち中に室内に限らず、いろんなところにあるよねという話もあったと。なんなら階段のところにも展示ができるよみたいな話も、発見としてあったということで、今京森さんがおっしゃっていただいたように、どこに展示できるのかというのと、どこに展示したいのかっていう人をどう繋いでいけるかっていうマッチングが大事みたいなことがあったと思います。

01:55:49

あとはコストをかけないということや既存のものを活かすと、山田さんの話からありましたが、すごくお金をかけるというよりも、どうやってそれを生かしていく資源として捉えていくかっていうことからスタートするのかなというような印象を受けました。

ということで、場所とマッチングと、どういうふうにコストをかけずに動かしていく仕組みが作れるかというところかなというキーワードをいただきました。ありがとうございます。

**宮前区企画課：小西**

01:56:19

ありがとうございます。一旦これで意見交換終わりました、引き続きお願いします。

**宮前区企画課：鈴木（司会）**

01:56:30

ありがとうございました。そうしましたら、最後に（6）今後の予定について、企画課の小西からご説明させていただきます。

## （6）今後の予定

---

**宮前区企画課：小西**

01:56:36

スライドの 23 ページをご覧ください。本日、いろいろと意見交換いただきありがとうございます。非常に面白い意見交換、三つとも中身の濃い内容で、次に繋がるなど非常に思ったところがございます。我々としても、これを受け止めて次に繋げていきたいなと思ったところです。

まずこの次に、本日議論したことを踏まえて、9月6日（土）の10時から12時で同じテーマで市長と意見交換する車座集会というのがございます。

そちらで本日議論したところを少し掘り下げて、より可能性を高めていきたいというところで意見交換したいと思います。お時間の都合がつく方は、LINEの方で、安藤さんが作っていただいておりますけれども、ご参加いただける方は、ぜひご参加いただければ幸いです。この中でもまた掘り下げて、次に繋がるような議論ができればなと思っております。以上でございます。

**宮前区役所まちづくり推進部企画課：鈴木（司会）**

01:57:38

ありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして、区長の齋藤からご挨拶させていただきます。よろしくお願いいたします。

**宮前区長：齋藤**

01:57:48

皆さん、長時間にわたりましていろいろご議論、ご意見、アイデアを出していただきまして、ありがとうございました。本当に休みなく 2 時間以上続けてやらせていただきまして、お疲れ様でございました。順番に、アートの魅力・素晴らしさというところから始まって、コミュニケーションに繋がるとか、そういったこともここで共有できました。

01:58:20

そして、可能性についてというところでは、コミュニティ作りに繋がっていくとか、そういったものでまちがアートの現場になる、というような言葉も出てきました。それらを含めて、展示する可能性と場所の可能性についても一連でお話できたということで、まとめとしましては、今後さらに深めるという意味で、市長も入って皆さんからまたご意見をいただきながら意見交換、そして可能性について話していきたいなと思います。

01:59:00

まず、区役所といたしましては、安藤さんが途中でもおっしゃったように、区役所での展示もまずはやってみるというところで、そこを発信して、区内いろんなところでアートが自然に見られるような、そしてそこからコミュニティに繋がっていくような宮前区になっていけばいいなということ、今日お話を聞いていて改めて感じたところです。

01:59:24

簡単に今、私、区役所そして公園という話をしました。先ほど小林さんの方から、一応公園にもルールがあるという話もありまして、どうしても役所というルールに縛られたところがございまして、区役所の中についても飾ると落ちてしまうのではないか、それが落ちて、人に当たったら危ないのではないか、といったことがまず出てくるのが区や市役所の性といいますか、そういった中で町中にいろんなアートがあふれるということは非常に素晴らしいなというところはあるんですけども、我々公務員としては、そういった管理上の問題や課題をいかに解決していくかということも考えていかなきゃいけないと改めて感じたところです。

そういったところにも皆さんのアイデアやご意見をたくさんいただけたらと考えています。公務員だけではもちろんできないところがいっぱいありますので、逆に皆様からそういったアイデアをいただければと今後も期待していきたいと思っております。今度の車座集会の方も、ぜひそういった新たな発想でご参加いただければと思います。

本日はお疲れ様でした。ありがとうございました。

**宮前区企画課：鈴木（司会）**

02:00:48

齋藤区長、ありがとうございました。最後に私の方から事務連絡を何点かささせていただきます。まず、お配りしている資料6のアンケートにご協力いただければと思います。

記載が終わりましたら、そのまま机の上に置いてお帰りください。また、駐車券が必要な方は近くの職員にお声掛けください。忘れ物のないようにお帰りください。

本日はありがとうございました。お疲れ様でした。